

## 2 就学前教育カリキュラム改訂版の基本的な考え方

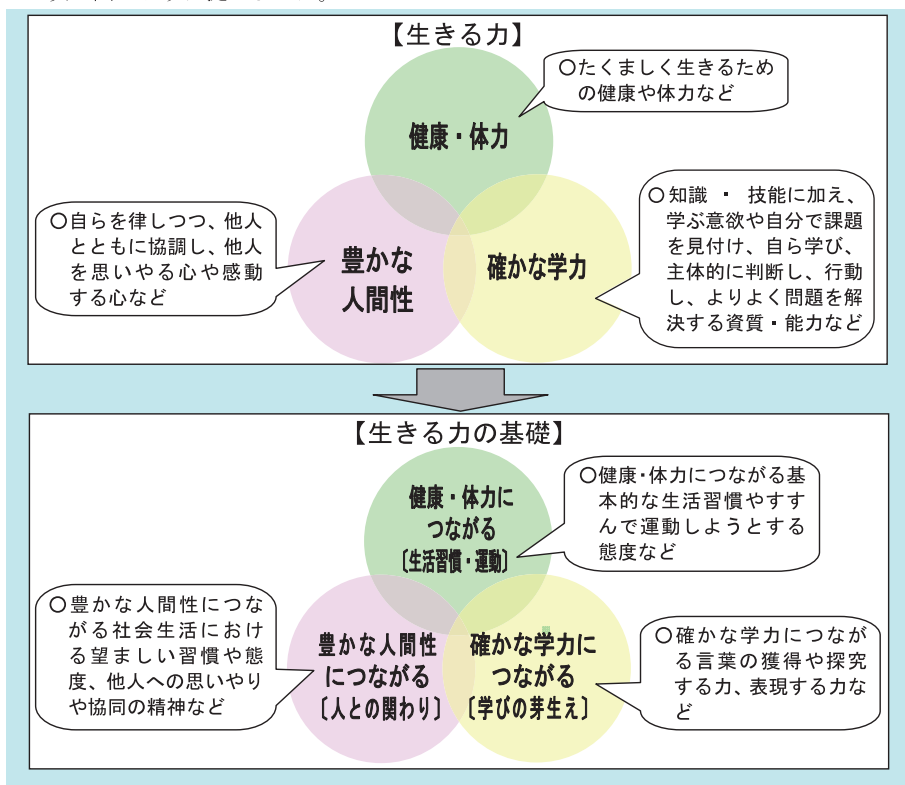
### (1) 生きる力の基礎を身に付けた子供像

乳幼児期は、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながる創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培う大切な時期です。就学前教育は、乳幼児期の発達に応じて、知識や技能に加え、学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力などの「確かな学力」、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの「豊かな人間性」、たくましく生きるための「健康・体力」から成る生きる力の基礎を培う役割を担っています。

そのため、各幼稚園や保育所等においては、幼児期の教育における見方・考え方(自発的な活動である遊びや生活の中で、幼児が身近な環境に主体的に関わり、環境との関わり方や意味に気付き、これらを取り込もうとして、試行錯誤したり、考えたりすること。)を生かし、就学前教育において育みたい資質・能力を育むことで、生きる力の基礎を培う必要があります。

本カリキュラム改訂版は、生きる力の育成を軸とした就学前教育と小学校教育との接続を踏まえ、乳幼児期の子供に生きる力の基礎を培うために、発達と学びの連続性を考慮し、0歳児から5歳児の発達に応じて確実に経験させたい内容を明らかにするとともに、具体的な指導方法を例示した、教育課程の編成や全体的な計画、指導計画の作成、日々の教育・保育活動の立案や実施、評価の際に活用できる指導資料です。

本カリキュラム改訂版では、乳幼児期の子供に培いたい生きる力の基礎について、次の図のように捉えました。



また、本カリキュラム改訂版において生きる力の基礎として扱えた、確かな学力につながる〔学びの芽生え〕、豊かな人間性につながる〔人との関わり〕、健康・体力につながる〔生活習慣・運動〕を身に付けた子供像を、以下のように設定しました。

なお、これらの子供像は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を〔学びの芽生え〕〔人との関わり〕〔生活習慣・運動〕の視点で分類したものであると言えます。

### 確かな学力につながる〔学びの芽生え〕を身に付けた子供像

- 興味や関心をもったことに主体的に関わったり、そのことを遊びに取り入れたりする。
- 自分の考えを相手に分かるように伝えたり、友達や先生の話に関心をもってすすんで聞いたりする。
- 目的に向かって繰り返し考えたり、試したりしながら最後までやり遂げる。
- 経験したことを取り入れたり、身近な物や用具などの性質や仕組みを生かしたりして遊びや課題に取り組む。
- 生活や遊びを通して感じたことや考えたことなどを、様々な表現方法で自由に表現することを楽しむ。

### 豊かな人間性につながる〔人との関わり〕を身に付けた子供像

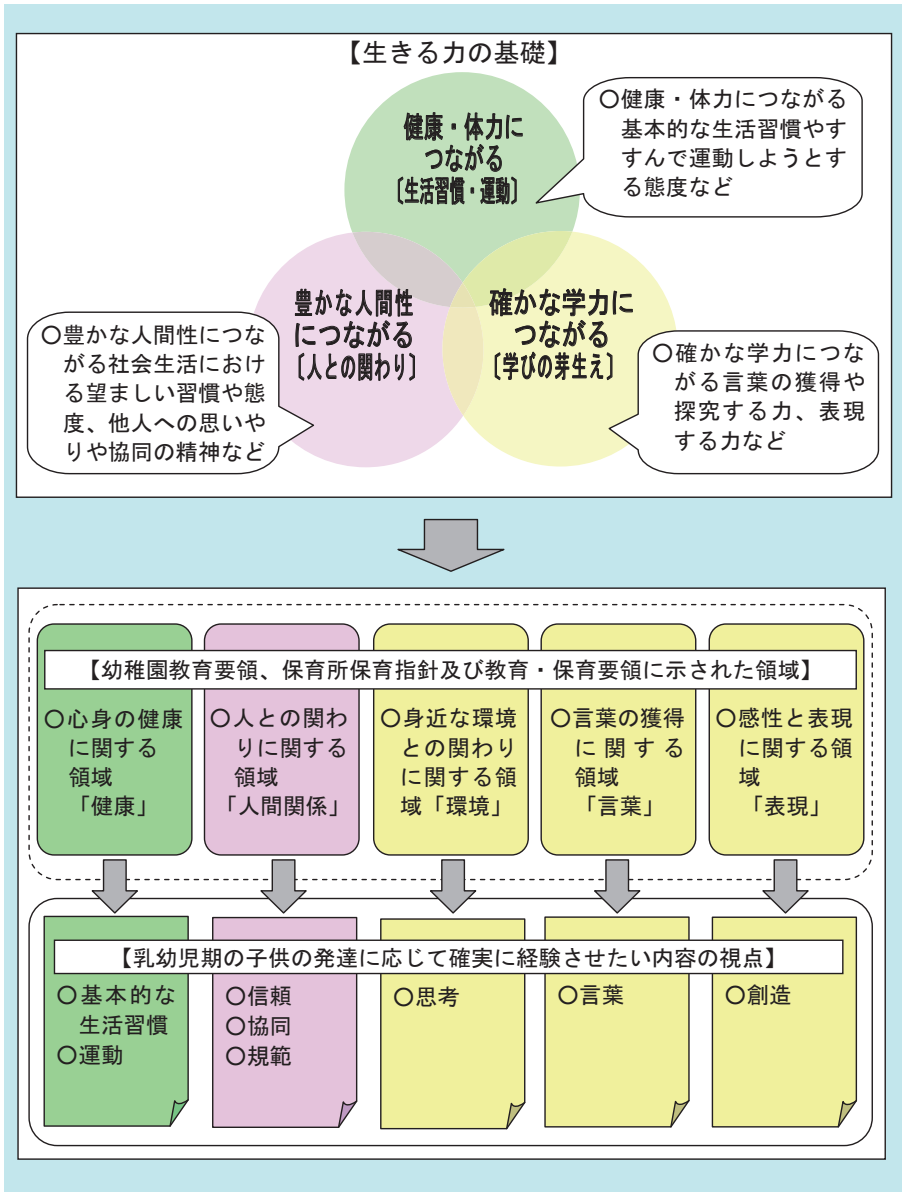
- 様々な人への信頼感をもち、自分の思いや考えを伸び伸びと表現する。
- 友達の思いや考えを受け止め、相手の気持ちを大切に考えながら行動する。
- 友達と互いのよさを感じながら協力したり、一緒に解決策を考えたりしながら遊びを進める。
- 相手も自分も気持ちよく過ごすために、してよいことと悪いことの区別などを考えたり、自分の気持ちを調整したりして行動する。
- 動植物など命のあるものを大切にする。

### 健康・体力につながる〔生活習慣・運動〕を身に付けた子供像

- 衣服の着脱、食事、排せつ、片付けなど生活に必要な活動の必要性に気付き、自分のことは自分でする。
- 体を動かす心地よさを味わい、自分からすすんで遊ぼうとする。
- いろいろな遊びの場面に応じて、体の様々な部位を十分に動かす。
- 友達や保育者と一緒に食べることを楽しむ。
- 集団での生活の流れなどを予測して、自分たちの活動に見通しをもって取り組む。

(2) 乳幼児期の子供の発達に応じて確実に経験させたい内容の視点

本カリキュラム改訂版では、幼稚園教育要領、保育所保育指針及び教育・保育要領に示されている「健康」、「人間関係」、「環境」、「言葉」、「表現」の五つの領域について、小学校教育との接続を踏まえながら生きる力の基礎を培う観点から、乳幼児期の子供の発達に応じて確実に経験させたい内容の視点を、次のように設定しました。



そして、乳幼児期の子供の発達に応じて確実に経験させたい内容の視点の趣旨を次のように捉えました。

乳幼児期の子供の発達に応じて確実に経験させたい内容の視点の趣旨

|         |                         |          |   |
|---------|-------------------------|----------|---|
| 生きる力の基礎 | 確かな学力につながる<br>〔学びの芽生え〕  | 思考       | <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な自然と触れ合い、様々な事象に興味や関心をもつこと</li> <li>周囲の環境に好奇心や探究心をもって関わり、遊びや生活に取り入れようとする</li> <li>身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する興味や関心をもつこと</li> </ul> |
|         |                         | 言葉       | <ul style="list-style-type: none"> <li>経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現すること</li> <li>相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を身に付けること</li> <li>生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付くこと</li> </ul>                                     |
|         |                         | 創造       | <ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろなものの美しさなどに出会い、様々に表現することなどを通して豊かな感性をもつこと</li> <li>生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむこと</li> <li>いろいろな素材や表現の手段の特性を知り、表現する楽しさを味わうこと</li> </ul>            |
|         | 豊かな人間性につながる<br>〔人との関わり〕 | 協同       | <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら行動しようとする</li> <li>他の幼児と共に活動する楽しさを味わうこと</li> <li>共通の目的が実現する喜びを感じる</li> </ul>  |
|         |                         | 信頼       | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の感情や意思を表現すること</li> <li>相手の思いや考えを感じたり受け入れたりすること</li> <li>人に対する信頼感や思いやりの気持ちをもつこと</li> <li>自信をもって行動できるようにすること</li> </ul>                          |
|         |                         | 規範       | <ul style="list-style-type: none"> <li>生活に必要な約束やルールを身に付けること</li> <li>よいことや悪いことに気付き、考えながら行動すること</li> <li>自分の気持ちを調整すること</li> <li>相手を尊重する気持ちをもって行動すること</li> </ul>                          |
|         | 健康・体力につながる<br>〔生活習慣・運動〕 | 基本的な生活習慣 | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分でできることは自分でしようとする</li> <li>見通しをもって行動しようとする</li> <li>安全や健康に気を付けて行動しようとする</li> </ul>  |
|         |                         | 運動       | <ul style="list-style-type: none"> <li>体を十分に動かし、すすんで運動しようとする</li> <li>体を動かす楽しさや気持ちよさを感じる</li> <li>競い合う楽しさやみんなで遊ぶ充実感を味わう</li> </ul>  |

(3) 乳幼児期の子供の発達過程の区分についての考え方

本カリキュラムにおける乳幼児期の子供の発達過程の区分については、保育所保育指針を参考に、次のように設定しました。

| 発達過程の区分  | 発達の特徴   |
|--|---|
| <p>おむね6か月未満</p>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>○首がすわり、手足の動きが活発になり、その後、寝返り、腹ばいなど全身の動きが活発になる。</li> <li>○視覚、聴覚などの感覚の発達はめざましく、泣く、笑うなどの表情の変化や体の動き、喃語などで自分の欲求を表現し、これに応答的に関わる特定の大人との間に情緒的な絆が形成される。</li> </ul>  |
| <p>おむね6か月から1歳3か月未満</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○座る、はう、立つ、伝い歩きといった運動機能が発達すること及び腕や指先を意図的に動かせるようになることにより、周囲の人や物に興味を示し、探索活動が活発になる。</li> <li>○特定の大人との応答的な関わりにより、情緒的な絆が深まり、あやしてもらいと喜ぶなどやり取りが盛んになる一方で、人見知りをするようになる。</li> <li>○身近な大人との関係の中で、自分の意思や欲求を身振りなどで伝えようとし、大人から自分に向けられた気持ちや簡単な言葉が分かるようになる。</li> <li>○食事は、離乳食から幼児食へ徐々に移行する。</li> </ul>                      |
| <p>おむね1歳3か月から2歳未満</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○歩き始め、手を使い、言葉を話すようになることにより、身近な人や身の回りの物に自発的に働き掛けていく。</li> <li>○歩く、押す、つまむ、めくるなど様々な運動機能の発達や新しい行動の獲得により、環境に働き掛ける意欲を一層高める。その中で、物をやり取りしたり、取り合ったりする姿が見られるとともに、玩具などを物物に見立てるなどの象徴機能が発達し、人や物との関わりが強まる。</li> <li>○大人の言うことが分かるようになり、自分の意思を親しい大人に伝えたいという欲求が高まる。</li> <li>○指差し、身振り、片言などを盛んに使うようになり、二語文を話し始める。</li> </ul> |
| <p>おむね2歳</p>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>○歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動機能や、指先の機能が発達する。それに伴い、食事、衣類の着脱など身の回りのことを自分でしようとする。</li> <li>○排せつの自立のための身体的機能が整ってくる。</li> <li>○発声が明瞭になり、語彙も著しく増加し、自分の意思や欲求を言葉で表出できるようになる。行動範囲が広がって探索活動が盛んになる中、自我の育ちの表れとして、強く自己主張する姿が見られる。</li> <li>○盛んに模倣し、物事との共通性を見いだすことができるようになるとともに、象徴機能の発達により、大人と一緒に簡単なごっこ遊びを楽しむようになる。</li> </ul>      |
| <p>3歳児</p>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な生活(食事、排せつ、衣服の着脱など)がほぼ自分でできるようになる。</li> <li>○基本的な運動機能が発達し、話し言葉が豊かになり会話を楽しむようになる。</li> <li>○自分の思いを主張しながらも友達と同じ場所で遊んだり簡単な集団での遊びを楽しむようになる。</li> <li>○自分を中心に考える時期である。</li> </ul>   |
| <p>4歳児</p>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>○運動のバランス、コントロールが取れるようになり、協応動作(ボール投げなど)も上手になり、異なる2種以上の行動を同時に行えるようになる。</li> <li>○周囲の環境に強い関心を持ち、身近な自然物、事物・事象と触れ合う中で友達と発見し合ったり、工夫し合ったりして遊びを豊かにしていく。</li> <li>○言葉による表現が進み、友達に自分のイメージを伝えて、一緒に遊びを楽しむようになる。</li> </ul>   |
| <p>5歳児</p>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>○全身運動が滑らかで巧みになる。</li> <li>○細かい指先の動きが滑らかになり道具の扱い、操作ができるようになる。</li> <li>○自分なりに判断したり批判したりする力が生まれ、自分と違う思いや考えを認めたり、社会生活に必要な力を身に付けて行動できるようになる。</li> <li>○生活や遊びに見通しをもち、友達と相談しながら活動を発展させていくようになる。</li> <li>○今までの知識や経験を生かして創意工夫を重ね、友達と遊びを発展させていくようになる。</li> </ul>   |